

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見	
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制



## 経済的貢献

日産は自らの持続的な利益ある成長は企業活動を行っていくうえで不可欠なものだと考えています。利益ある成長は、雇用創出や地域の発展など社会全体の経済的発展にも貢献します。日産は企業としての経済的な価値を最大かつ持続的なものにするために、中期経営計画「日産パワー88」を掲げ、実行しています。また、日産にはすべての人にモビリティを提供し、持続可能なモビリティ社会を実現するという大きな目標があります。その達成に向け、世界のあらゆる市場で商品を提供すべく事業を地理的に拡大するとともに、ゼロ・エミッション車をはじめとする新たな市場を創出するなど、社会全体に対する価値を生み出していきます。

### 取り組みの柱





	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## 経済的貢献

### CSRスコアカード

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは、「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	重点活動(価値)	進捗確認指標(適用範囲)	2011年度	2012年度	2013年度	長期ビジョン
企業としての利益ある成長を加速	「日産パワー88」の実行、推進	連結営業利益率 (連結会社、中国合弁会社比例連結ベース)	5.8%	5.4%	5.3%	持続可能なモビリティ社会の推進を通じて、持続的な利益ある成長を目指す。そして、あらゆるステークホルダーに、長期的な価値を提供し続ける
		グローバルマーケットシェア (連結会社)	6.4%	6.2%	6.2%	

### 関連指標

連結従業員数 **142,925人**

車両生産拠点 **19カ国・地域**

納税額 **964億円**



▶ GRI G4 Indicators  
▶ G4-6/G4-9/G4-EC1

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 経済的貢献への取り組み

日産は事業を通じて、社会の経済的発展に貢献するとともに、社会の成長を持続可能なものにすることを目指しています。その実現に向け、2016年度までに実行すべき、明解かつグローバルなビジョンと具体的な戦略を示したのが中期経営計画「日産パワー88」\*です。日産は企業価値を最大化するため、この計画で掲げられたそれぞれの戦略を着実に実行していきます。

### 2013年度の実績

- メキシコ・アグアスカリエンテス第2工場が稼働開始  
(年間生産能力17万5,000台)
- ブラジル・レゼンデ工場が稼働開始(年間生産能力20万台)
- 株式配当: 30円/株の実施(配当性向32.3%)

### 今後の取り組み

- 強力な商品や技術の投入、ブランドパワーやセールスパワーの向上、そして生産能力増強のための効率的な投資によって中期経営計画「日産パワー88」を完遂し、持続可能な発展・成長を目指す
- 配当性向を最低でも30%とすることを目指す

### 推進体制

日産グループは日産自動車株式会社とその子会社、関連会社およびその他の関係会社で構成されています。主な事業としては、クルマや部品を製造・販売する自動車事業とボートや部品を製造・販売するマリン事業があり、販売活動を支援するための販売金融サービスも行っています。

世界的な本社機能として「グローバル本社」を設置し、各事業への資源配分を決定するとともにグループ全体の事業を管理しています。またグループを「日本・アジア」「アメリカズ(北中南米)」「AMIE(アフリカ・中東・インド・欧州)」という3つの地域に分けたマネジメント・コミティによる地域管理と研究・開発、購買、生産といった機能軸による地域を超えた活動を有機的に統合した組織により運営しています(2013年12月現在)。よりきめ細かい市場対応を可能にするため、2014年1月より6リージョン体制に移行しました。

### 企業としての利益ある成長を加速

日産は自動車産業に大きく貢献する企業として世界をリードする役割を担っています。世界中の人々に最適なモビリティを提供する使命があり、持続可能なモビリティ社会の実現に向け、さまざまな課題の解決に貢献する必要があります。またイノベーションを通して新しい価値を創造し人々に提供することも日産の重要な目標です。こうした使命を果たすためにも企業として利益ある成長を持続することが不可欠です。中期経営計画「日産パワー88」は企業として成長を加速させる意欲的な計画です。企業としての実力を100%引き出すことで、社会全体に対しても雇用創出をはじめとする価値を生み出したいと考えています。同時に、重点分野および市場への戦略的な投資も継続していきます。今後も適切な利益確保に努め、社会に対する価値創造を継続的に高めることを目指します。

### 重点分野および市場への戦略的な投資

グローバル市場における日産の成長を加速させるには、事業と市場を拡大し、世界のあらゆる市場でお客様のニーズに合った商品を提供する必要があります。日産はニッサン、インフィニティに続く第3のブランドであるダットサンを復活させ、インド市場においてダットサン「GO」の発売



▶ website

\*「日産パワー88」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

を2014年3月に開始。インドネシア市場では、実用的な5ドアの3列MPVダットサン「GO+」を発表。ダットサン「GO」の発売も発表しました。ダットサンは、高い成長を続ける市場で将来の成功を夢見るお客さまに、クルマのある豊かな生活を提供します。ダットサン・ブランドのモデルはロシアおよび南アフリカでも販売を開始する予定です。すでにロシアでは、ダットサン「on(オン)-DO(ドゥー)」の投入を発表しました。

北中南米地域においては、メキシコのアグアスカリエンテスに建設した新工場が2013年11月に稼働を開始。年間17万5,000台の生産能力を有するため、同国での年間生産能力は25%向上し、85万台以上となりました。同時に新工場で3,000名以上、間接的には9,000名以上の雇用を創出しています。世界第4位の自動車市場となったブラジルでは、リオデジャネイロ州レゼンデの新工場が2014年2月に稼働を開始しました。ブラジル市場向けVプラットフォーム車両を年間20万台生産します。北中南米地域の年間生産台数は200万台以上に拡大しました。

アセアン(ASEAN)地域では、2011年に市場が再開放されたミャンマーが注目されていますが、日産とタンチョンモーターはCKD生産(製品の主要部品を日本から輸出し現地で組み立て生産を行う)に関するライセンスを取得しました。ミャンマーのバゴー管区に建設される新工場は2015年に「サニー」の生産を開始し、稼働開始時には300名の従業員を雇用する予定です。日産は、2011年以降にミャンマーに進出する初のグローバル自動車メーカーとなり、ミャンマーにおける自動車産業の発展に寄与したいと考えています。

### イノベーションマネジメント

少子高齢化や環境問題などさまざまな課題を抱える予測不可能な現代社会において、「将来のモビリティ社会に貢献する新たな価値の創造」は日産の大きなミッションであると考えています。日本、米国、インド、ロシアにある研究拠点では、社会のトレンドを見据え、将来の自動車社会に対応するための研究をしています。

新しい価値を発見・提案・提供できるイノベーションの礎となるのが、3つの柱からなる研究方法「NRW(Nissan Research Way)」です。1つ目の柱が「将来の技術動向と社会の価値観変化を見極めること」。2つ目が「世界の智が集うオープンイノベーションの拠点になること」。そして、3つ目が「戦略的領域で内部に高い技術力を持つこと」。より高いレベルの「NRW」を実現させるため、革新的な研究を創出するマルチ・スペシャリストとしての人材を大切にしています。

2013年2月、ルノー・日産アライアンスは米国カリフォルニア州シリコンバレーに「Nissan Research Center Silicon Valley(日産総合研究所シリコンバレーオフィス)」を開設。世界の先端企業や大学の研究機関との連携が可能なオープンイノベーション拠点として、将来のニーズに応える快適なモビリティ社会の実現に貢献する研究を進めることが可能となりました。

主な研究分野としては、「安全でストレスのないモビリティの実現のための自動運転車両の研究」「エネルギーおよび時間効率を最大化する、インフラやインターネットなどの外部環境とつながる車両の研究」「自動運転車両やつながる車両で実現するモビリティ体験を、より快適なものにするためのインターフェース技術の研究」などになります。

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### ステークホルダーとの対話

**株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。日産の事業活動を正しくご理解いただくため、IR(株主・投資家向け広報)活動においては迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。**

#### 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションとして、四半期ごとの決算説明会に加え、機関投資家への個別訪問や証券アナリストとの取材対応を頻繁に行っているほか、会社主催の事業説明会や証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況などを積極的に情報開示しています。また、個人投資家向けに開催される証券会社主催の会社説明会にも参加しています。さらに、投資家向けのウェブサイトを経営し、随時最新情報を開示しています。

2013年度に注目された事業のひとつに軽自動車事業があります。日産が企画からかわった初の軽自動車である「デイズ」は、三菱自動車工業株式会社との合併会社として設立された株式会社NMKVで企画・開発された最初のモデルです。日産では、このクルマの発売に合わせ、証券アナリスト、機関投資家の方々を対象に、軽自動車事業に関する説明会を実施しました。また、諸島問題による販売不振からの復調を見せている中国事業への理解を深めていただくために、子会社であるジヤトコ株式会社、サプライヤーのユニプレス株式会社と共同で現地工場の見学会を開催しました。

日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示に努めていきます。

#### 第114回株主総会

第114回定時株主総会は、2013年6月25日、パシフィコ横浜で開催され、1,379名の株主の皆さまにご出席いただきました。株主総会後には最高経営責任者（CEO）であるカルロス・ゴーンをはじめ執行役員以上が全員参加する懇親会を行い、対話の機会を持ちました。また、これに先立つ6月22日には、抽選により200名を追浜工場に招待して「日産自動車技術体験会」を開催しました。

株主総会は、日産の経営陣が株主の皆さまと直接コミュニケーションをとれる貴重な機会です。株主総会や関連イベントを通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても十分な説明をすることで、信頼に添えていきたいと考えています。

また、株主総会に際しては、株主の皆さまの日産への質問や意見を事前に募集し、説明や報告、質疑応答を充実させる取り組みを、2009年から続けています。

2008年から開催している「日産自動車技術体験会」では、工場生産ラインの見学やテストコースでの試乗体験などを通じて日産の技術を体感していただくほか、役員との懇談の場を設定し、活発な意見交換を行っています。株主の皆さまとの貴重なコミュニケーションは、直後に行われる株主総会の大きな参考となっています。

#### IR活動で外部から高い評価

日産は、公益社団法人日本証券アナリスト協会主催の第19回「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、自動車・同部品・タイヤ部門の優良企業1位に7年連続で選定されました。「ディスクロージャー優良企業選定」は、企業の情報開示向上を目的に設立され、各業種のアナリストが、経営陣のIR姿勢、説明会、フェアディスクロージャー、コーポレートガバナンス、自主的情報開示の5項目における評価を行います。日産は、経営陣のIRへの積極的な取り組み、コーポレートガバナンスや事業活動に関する自主的な情報開示などが評価されました。

▶ website

IR情報に関する詳細はウェブサイトをご覧ください